

文部科学省科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成プログラム
岐阜大学社会基盤メンテナンスエキスパート養成ユニット
上田孝行先生メモリアルシンポジウム
暮らしの安全と地域再生への挑戦『地域の道をみんなで守る』

日 時：平成22年4月23日（金） 13時30分～17時30分（13時開場）
場 所：岐阜県民ふれあい会館 大会議室（3階）
岐阜市藪田南5丁目14番地53号 TEL 058-277-1180

主 催：岐阜大学社会資本アセットマネジメント技術研究センター
後 援：岐阜県 長崎大学 岐阜県社会基盤研究所
（社）地盤工学会中部支部 （社）土木学会中部支部

参加費：無 料

- * 地盤工学会 CPD 対象講習
- * 全国土木施工管理技士会 CPD 対象講習

概 要：社会資本アセットマネジメントの効果的な実現に向け、地域住民、関連企業、行政の地域連携・協働のあり方に関する基調講演を行う。インフラの取捨選択なども視野に入れた地域協働による新しい社会の創造といった観点で故上田孝行先生の考えを披露する。社会資本アセットマネジメントの根幹となる情報収集管理の観点、住民の創発的な活動などを含めた地域連携のあり方、岐阜県社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）とメンテナンスサポーター（MS）、長崎県の道守に関する活動および取り組みなどの話題提供を通じて、社会資本アセットマネジメントを通じた地域協働型のガバナンスのあり方についてパネルディスカッションで議論する。

タイムスケジュール

開会の辞：(13:30～13:40)

基調講演：「地域協働型アセットマネジメント」(13:40～14:40)

京都大学教授 小林潔司先生

地域社会の社会資本の維持補修において、マネジメント概念を取り入れた効率的な維持管理の具現化、地域住民による創発的な活動を含めた地域協働において何が重要かを説いていただく。

メモリアル講演：「上田孝行先生が目指した社会資本アセットマネジメント」(14:40～15:20)

岐阜大学教授 高木朗義先生

インフラの取捨選択なども視野に入れた地域協働による新しい社会の創造といった観点で故上田孝行先生の考えを披露する。

パネルディスカッション：「地域連携・協働による社会資本アセットマネジメントの実現に向けて」(15:35～17:25)

コーディネータ：高木朗義 岐阜大学社会資本アセットマネジメント技術研究センター

パネリスト：小林潔司 京都大学経営管理大学院教授

畑山満則 京都大学防災研究所准教授

松田 浩 長崎大学教授 インフラ長寿命化センター センター長

加藤十良 ME の会

宗宮裕雄 岐阜県県土整備部

＝ショートプレゼン＝

- ・情報ネットワーク的視点から見た地域協働（畑山満則 京都大学防災研究所准教授）
情報収集、管理と伝達という観点、情報科学に基づくネットワーク形成過程の視点などから地域連携についての考え方を講演していただく。
- ・地域協働実現に向けた道守の挑戦（長崎大学インフラ長寿命化センター）
道守養成ユニットはまさに地域協働によるインフラ管理を目指している。特に道守補助員は一般市民を対象にしており、その点を絡めて道守の取り組みを報告していただく。
- ・地域協働実現への社会基盤メンテナンスエキスパートの挑戦（ME の会）
地域協働に向けた社会基盤メンテナンスエキスパートのめざすもの、役割、思いと現在の取り組み状況について報告していただく。
- ・岐阜県の取り組み（岐阜県県土整備部）
地域協働という文脈で行政のあり方を、社会基盤メンテナンスサポーター(MS)などの取り組み状況を含めて報告していただく。

閉会の辞 (17:25～17:30)

シンポジウム主旨

高度経済成長期に建設された土木構造物が老朽化を迎え、効率的な維持管理の遂行は重要な課題となっている。そのため、社会資本の効率的維持管理をめざした社会資本アセットマネジメントは、おおよそ専門家にはその重要性は浸透したかにみえる。一方で、維持管理を実際に行っている現場では、効率的・効果的な点検をどのように持続的にやっていくのか、緊急補修や災害発生など計画段階で想定外の事象が起こった場合に、どのように計画案を修正し運用していくのか、すなわち、維持管理戦略を現実の状況と照らし合わせ、微修正しながら遂行していく方法については、まだまだ議論が未成熟であり、あくまで机上の理論としてしか受け入れられていない現状もある。高齢社会が進展し、人口減少が本格化する、このような状態における土木構造物の維持管理は困難を極めることが予想され、今後、場合によってはインフラの取捨選択も視野に入れた厳しい議論が必要かもしれない。このような状況の中、現実問題としての維持管理の遂行方法まで踏み込んだアセットマネジメントのあり方を議論することが肝要である。

効率的な維持管理戦略の策定において、対象の状態を定期的にモニタリングし診断することが必要であることは明らかである。しかしながら、監視すべき対象の激増が予想される状況で、従来通り行政担当者がすべての対象についてモニタリングを行うことは難しく、その使用者である地域住民の方々が日頃より道路の性状について監視することが望ましいと考えられる。このような地域住民との連携があってはじめて、社会資本アセットマネジメント戦略は効果を発揮すると考えられる。地域住民、関連企業、行政の協働を前提とした地域の意思決定や合意形成のあり方を模索し、社会資本の効率的な運用を通じて地域経営（地域ガバナンス）をいかに実現していくかを議論することが本シンポジウムの目的である。

岐阜大学では、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成プログラム」の採択を受け、岐阜県および県内建設業界それぞれの組織の技術者が所定の科目を履修することにより、共通の高度な知識を持った総合技術者（社会基盤メンテナンスエキスパート）を養成することを目的とした「社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成ユニット」を2008年7月より開設し、ME認定者45名を輩出している（2009年11月現在）。また、同プログラムにより、長崎大学では道路のメンテナンスを展開する「観光長崎を支える“道守”養成ユニット」が開設されている。MEや道守には、住民参画に基づく地域ガバナンスを前提とした土木構造物の維持管理遂行におけるリーダー的役割が期待されている。また、岐阜県では、地域住民の方々に道路や橋梁の性状に関する講習会を行い、モニタリングを依頼しMEの活動を下支えするメンテナンスサポーター（MS）制度について現在試行を始めており、社会資本アセットマネジメントを題材とした新しい地域ガバナンス形態の構築に挑戦している。本シンポジウムにおいては、社会資本アセットマネジメントにおける地域連携のあり方に関する基調講演を題材とし、社会資本アセットマネジメントの根幹となる情報収集管理の観点からの地域連携のあり方、メンテナンスエキスパート（ME）の活動および岐阜県での取り組みなどの話題提供を通じて、社会資本アセットマネジメントを通じた地域協働型のガバナンスのあり方について議論する。